

私にとって、約2年半ぶりの東京。全国のきょうされんの仲間達が一生懸命集めた、40回目の国会請願署名の、国会議員に対する紹介議員依頼行動。五月下旬のこの日の天気は生憎のやや雨で、でも国会議事堂と首相官邸のすぐ裏及び横に位置する巨大な衆議院第一議員会館・第二議員会館、参議院議員会館に徐々に圧倒されながら、参議院議員会館で前日の総会来ていたポプラのスタッフと落ち合った。私はポプラの会山本会長と朝早く新幹線で上京したのだが、他にも一緒に行動を共にした絆の会職員・ひまわりの会のメンバーらと、「皆でやれば怖くない」式にずっと共に国会議員の部屋をまわって歩いた。一番最初に革新系政党の議員さんが、貴重な時間を割いて下さるとの事で、松本からの仲間も交えて、部屋に入り、障がい当事者の話を丁寧に聴いてくださった。曰く、事実を突き付ければ今の閉塞感は打開出来る、と言う趣旨の事を仰った。事実には権力も弱い、言い換えれば現場の声を国に届けば変わる、つまりは運動は裏切らない、と言うパラフレーズに行き着く視点だと思った。そして、何より私達に優しくかった。残りの私達担当の議員の方は、実際にはきょうされん長野支部役員・絆の会職員の方が、今回の署名手渡し及び紹介議員依頼の手続きをやってくださり、残った私達は思いを色々届ける、と言うスタンスで長野県選出の国会議員にお願いした。同じ政党でも、「うちは～党なので受け取れません」と言う議員秘書も居る一方、丁寧に應對してくれ、きちんと受け取ってくださる議員秘書も居り、一見一枚岩に見えるこの政党も実はそうではなく、色々な考えを持った人達の集まりである事が、はからずも露呈した格好となった。私は門前払いされた議員の秘書には「国政で忙しいでしょうが、もっとフェアをお願いします」と言い、署名を受け取ってくださった別の政党の議員秘書には「応援しているので～さんには頑張ってください」と申し上げた。議員会館と言うのは、警備が厳重で、何人も訪ねる今回の様なケース（全部で8人）では議員を待たす訳にはいかず、一気に受付表や面会申込書を提出する事は出来ないの、一旦外に出て再度申し込む手続きをせねばならず、しかも衆院第一・第二・参院と三つに跨っているの、面倒な受付や、建物が変わる場合金探チェックをその度に受けねばならず、帰りの新幹線の中でとうとうへたってしまい、靴を脱いで休んで帰郷した。大変だったが、充実した一日だった。参加された仲間の皆様にも感謝し、「お疲れ様、有難う」と労いたい。



熱心に私たちの意見や要望、質問に答えてくださった議員さんとの懇談会にて。署名をお渡しし、国会で採択されるようにお受けいただきました。



国会議事堂の前で
絆の会の皆さんと請願の移動中に